

『成果につなげるデータ分析活用のコツ』

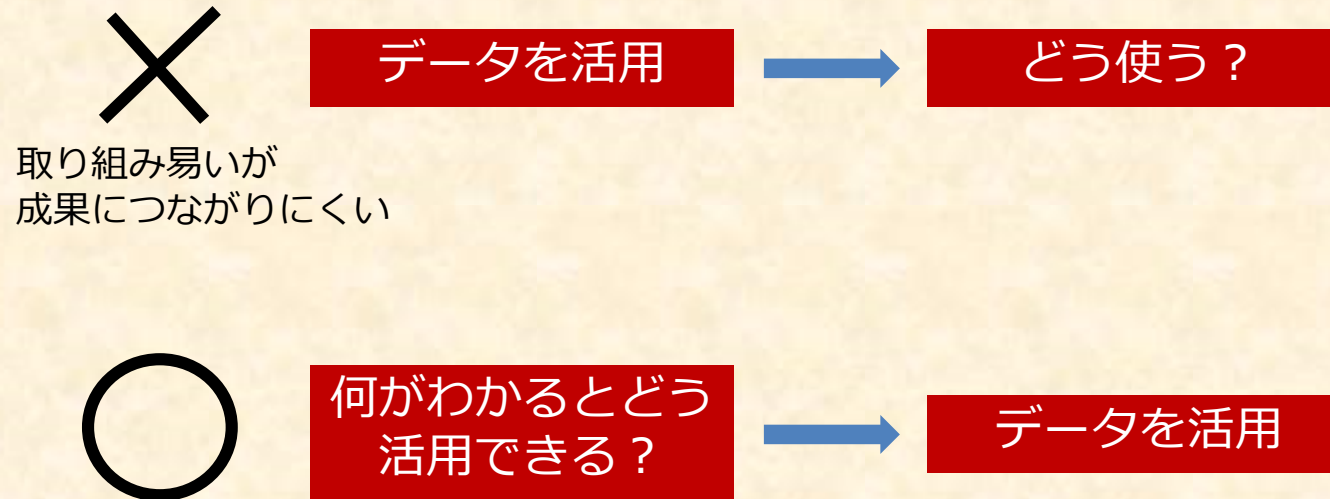
2017年10月23日
データ&ストーリー LLC
柏木吉基

『データ整理』を卒業して『データ分析』へ

- ①仮説と目的を先に
- ②現状把握なのか関連性からストーリーを描くのか
- ③課題解決の手順

①目的と仮説を先に

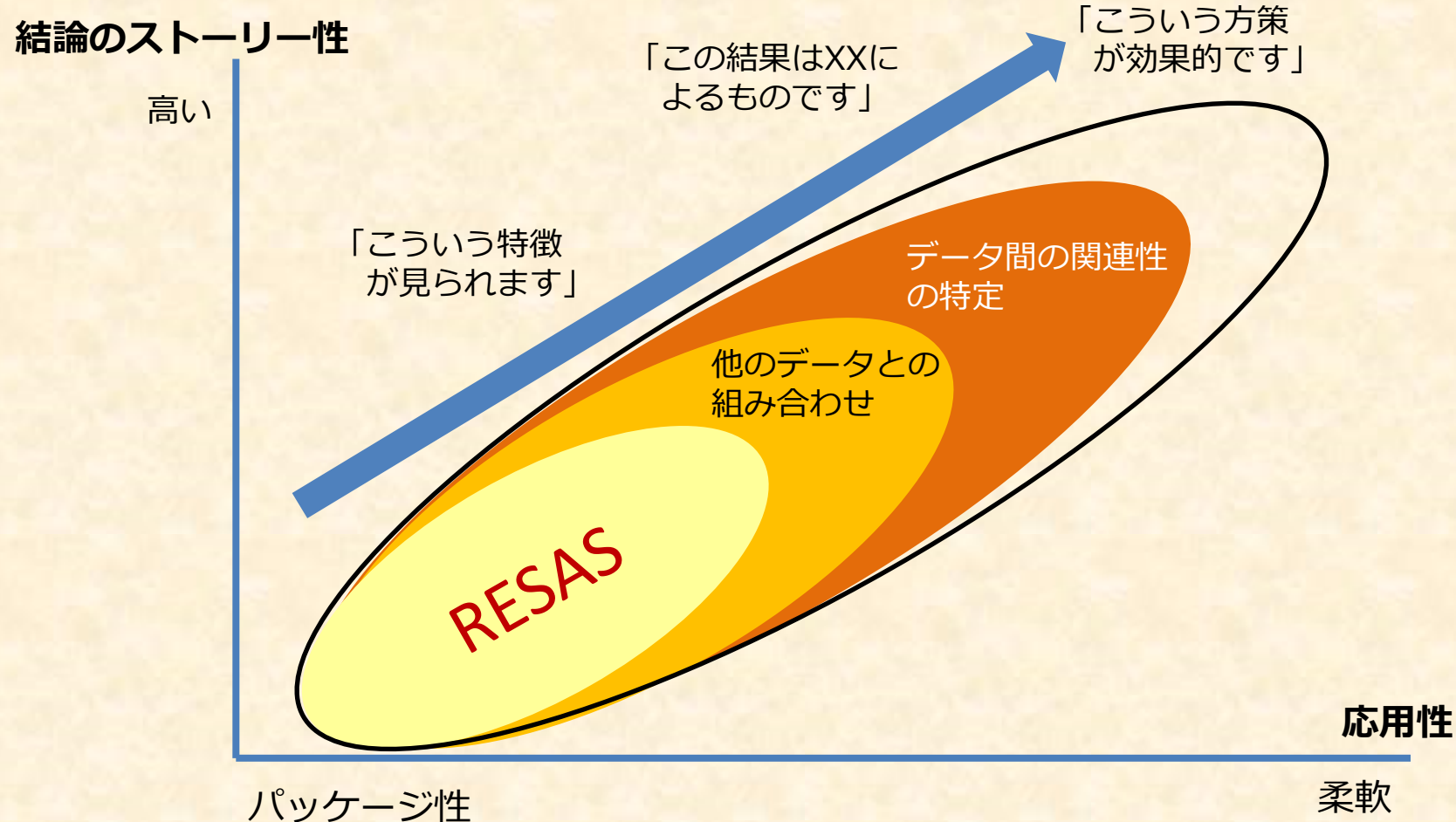
データ分析デザイン を先にしていますか？



②現状把握なのか関連性からストーリーを描くのか

目指すアウトプットと必要な内容を意識していますか？

RESASでできること、その先にあるもの



③課題解決の手順

いきなり方策に飛んではいませんか？

課題解決の手順



【事例紹介】
新潟県燕市・弥彦村データ活用プロジェクト

『地場産業を活性化するには？』

2016年8月～11月



(1) 課題を再定義する（指標化含む）

- ・「地場産業」って、つまり何？
- ・「活性化」しているって、つまりどういうこと？
- ・これらはどの指標で表せる？

(2) 現状把握・課題ポイント絞り込み

- ・現状をどう表現できる？
- ・何とどう対比させると「課題ポイント」が絞り込める？
- ・「活性化していない」「衰退している」課題はどこにある？
どうやって示せる？（売上？企業数？認知度？・・・）

(3) 要因特定

- ・絞り込んだ課題が起きている“要因（原因）”は何？（仮説）
- ・仮説をどうやって検証すればよい？

(4) 方策検討

- ・特定した要因に対して、有効な方策は？
- ・方策の優先順位とその基準は？

燕市事例

ポイント：
自分たちは何をどう見ようとしているのか？をはっきりさせる。

(1) “地場産業”を定義（規定）する指標を、下記（黄色の）3つに決めた

業界の視点

総付加価値額が大きい産業

企業（事業所）数が多い産業

総売上/出荷額が大きい産業

総従業者数が多い産業

地域の視点

歴史がある産業

地元資源を使用している産業

認知度（知名度）が高い産業
（地域内外）

燕市事例

(2) “活性化”状態を定義し、それらを測る指標候補を決めた。

“活性化”状態の定義	指標の候補
(A) 売上が向上している	・ 売上高 ・ 出荷数
(B) お金が回っている	・ 税込 ・ 雇用者所得（給与）
(C) 企業の規模が拡大している	・ 従業員数 ・ 年間企業数 ・ 創業社数
(D) 新しい取り組みをしている	・ 特許出願数 ・ 商品種類数
(E) 認知度が向上している	・ アンケート結果 ・ HP閲覧数（メディア掲載数）
(F) 付加価値が向上している	・ 付加価値額

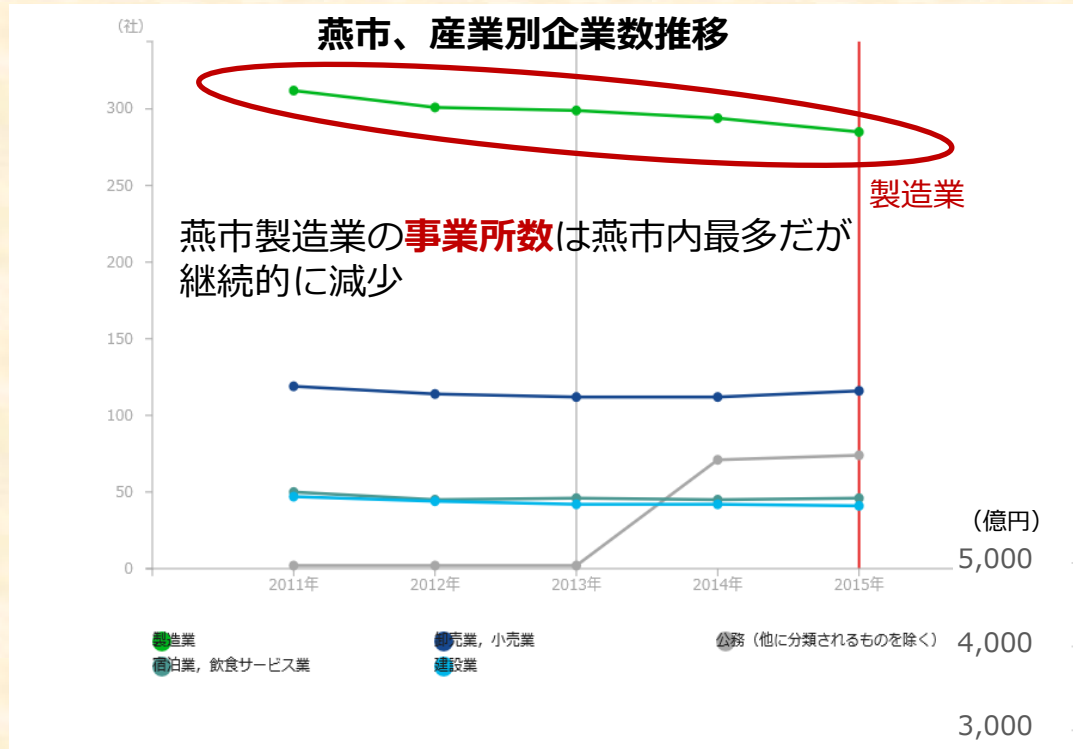
赤・太字が投票数が多かった指標。

赤・細字は次点。

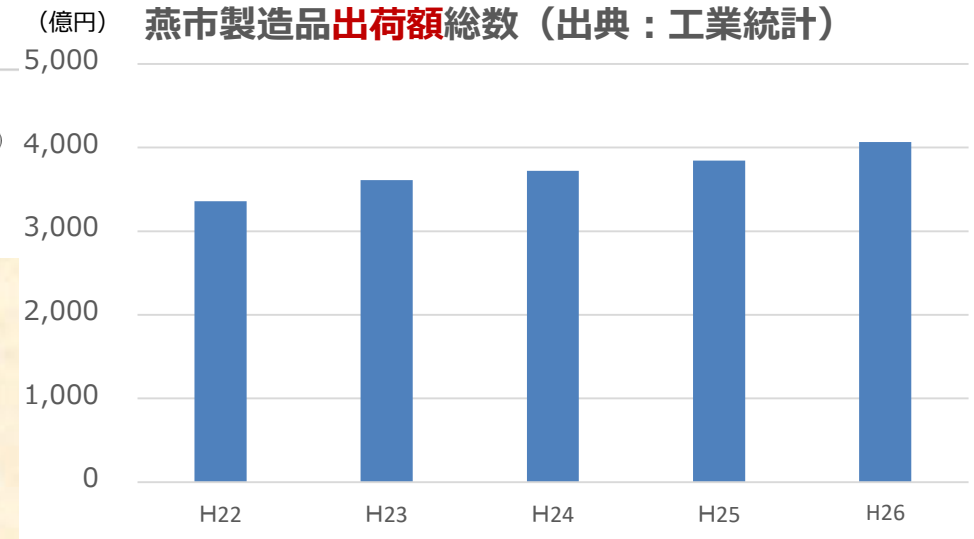


燕市事例

推移と大きさ（規模）の観点から確認



燕市製造品出荷額総数（出典：工業統計）

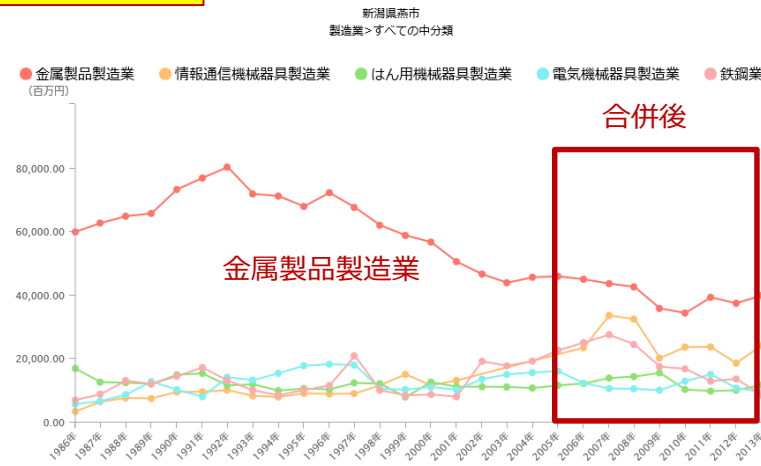


燕市事例

ポイント：
単独の結果だけではなく、複数の結果の繋がりからストーリーを見出す

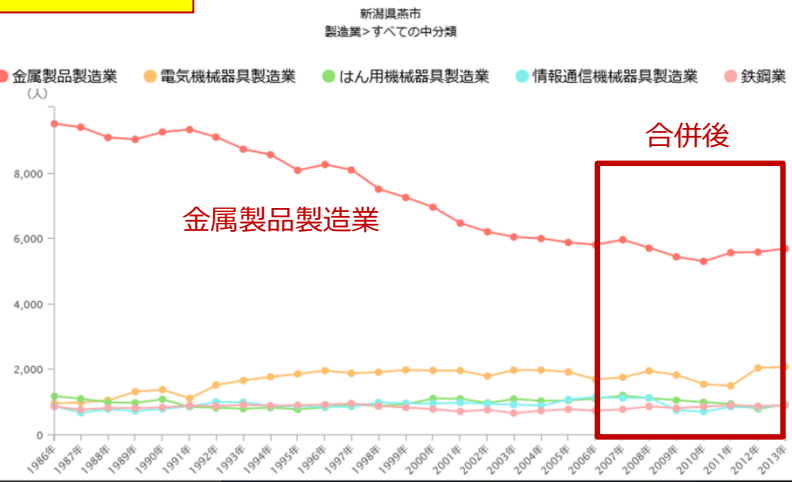
付加価値額の課題

付加価値額(実数)の推移



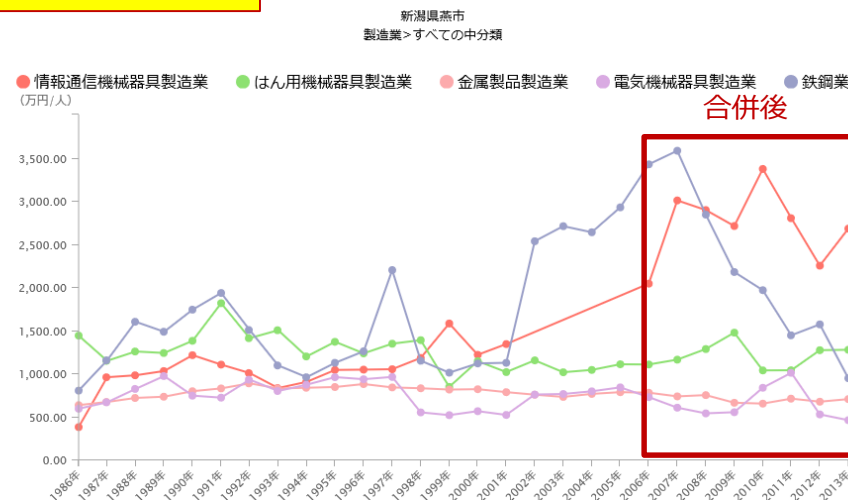
従業員数の課題

常用従業員数(実数)の推移



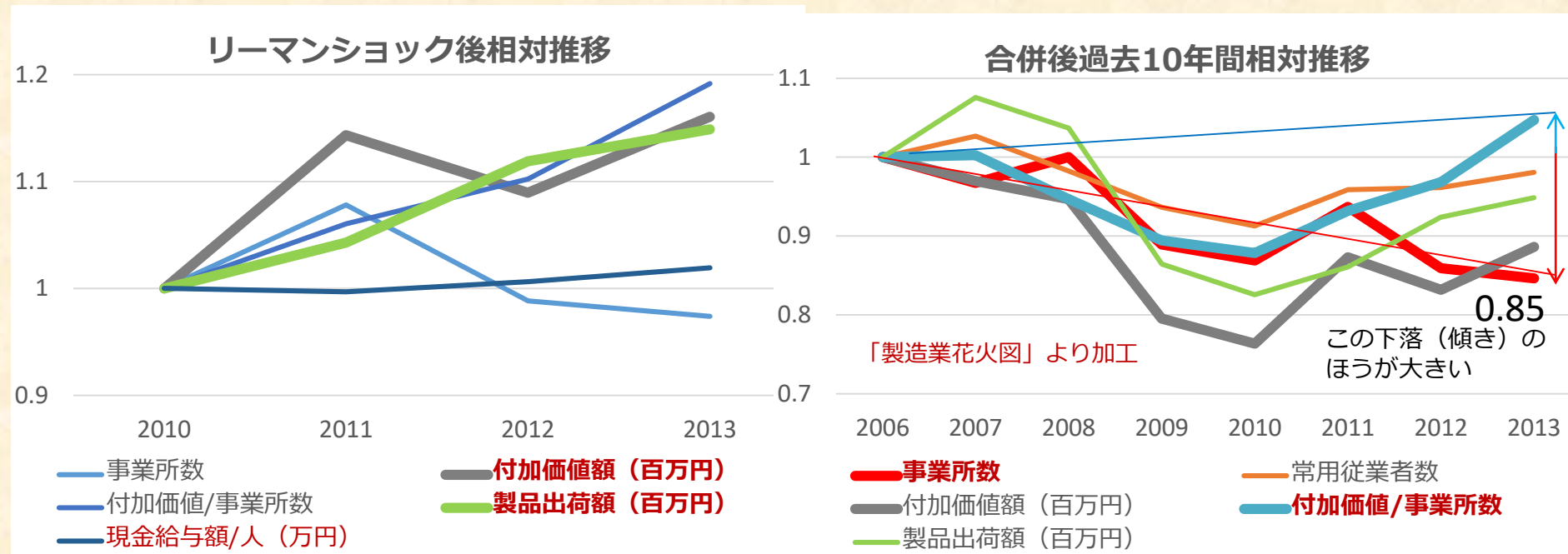
労働生産性の課題

労働生産性(実数)の推移



燕市事例

比率による推移状況を確認した



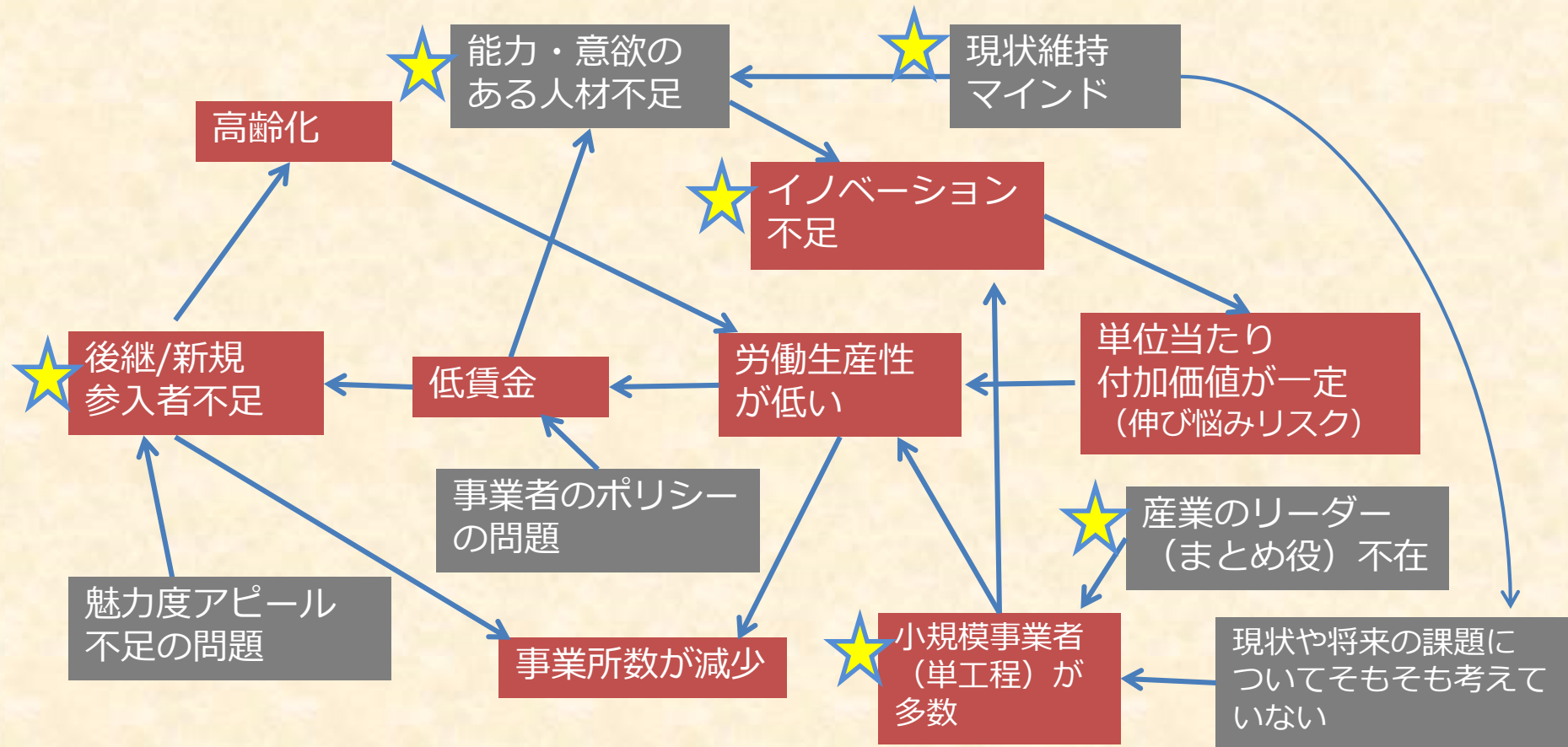
(左図) 付加価値額と製品出荷額の増加率がほぼ同じ (= 製品ごとの利益率が変わらず)

(右図) 事業所数の減少が、付加価値増を大きく上回っている (= 総付加価値減少のリスク増大)

⇒事業所数の顕著な減少に伴い、製品単体/事業所当たりの付加価値増をどのように造り出すかが総付加価値額維持、向上のための課題。

燕市事例

課題、要因仮説を連関図でつなぎ合わせ、繋がりを明確化した



* : ⇒が集まるほうが“結果”、出ていくほうが“原因”に近い

■ : 連関図作成の際に新たに出てきた項目

★ : 方策案が出てきた項目

本日のポイント

- ① データ作業の前に分析デザイン（目的と仮説）を
- ② RESASの結果と他のデータとの組み合わせを
- ③ 課題解決のプロセスを考慮して（要因分析を飛ばさない）

ありがとうございました

メルマガ登録、組織定着サポートなどにつきましては、
下記ウェブサイトをご覧ください。

データ&ストーリー
<http://data-story.net>
TEL:080-3433-8462